

圖 版 解 説

武田信玄書狀

原寸
縦三寸九分五厘
横一尺一寸三分

遠三表出馬就本意

芳墨殊爲祝儀太刀

一腰到來珍重候是も

一饒迄一振進之候遠三

濃三ヶ國山中無殘

靜謐味方之諸城備等

堅固申付候委曲雇彼

口上候之條不能具候恐々

謹言

五月六日 信玄

信晴
(朱印)

下間刑部卿法橋

こゝに掲げた信玄の書狀は東本願寺の坊官藥津家に傳へたもので、現在大谷大學圖書館に保管されてゐる。宛名の下間刑部卿法橋とは本願寺の坊官下間賴康の子賴廣のことであらう(下間系圖參照)。書狀の内容は本願寺より信玄の三河侵入を責せるに對して返禮を述べたものである。年紀は記されて居らぬが、元龜二三年の交のものたることは疑ひなく、信玄の西上と本願寺との關係を窺ふに足るべき史料である。署名の下に捺す「晴信」の朱印は縦一寸横九分五厘の大きさを有し、他に餘り見かけぬ珍しいもので、晩年にかゝる朱印を用ひたことが知られる。(橋川正)

陳子龍



陳子龍

福

子龍

子龍

子龍

子龍

子龍

子龍

子龍

子龍